

GREEN EARTH
緑の地球

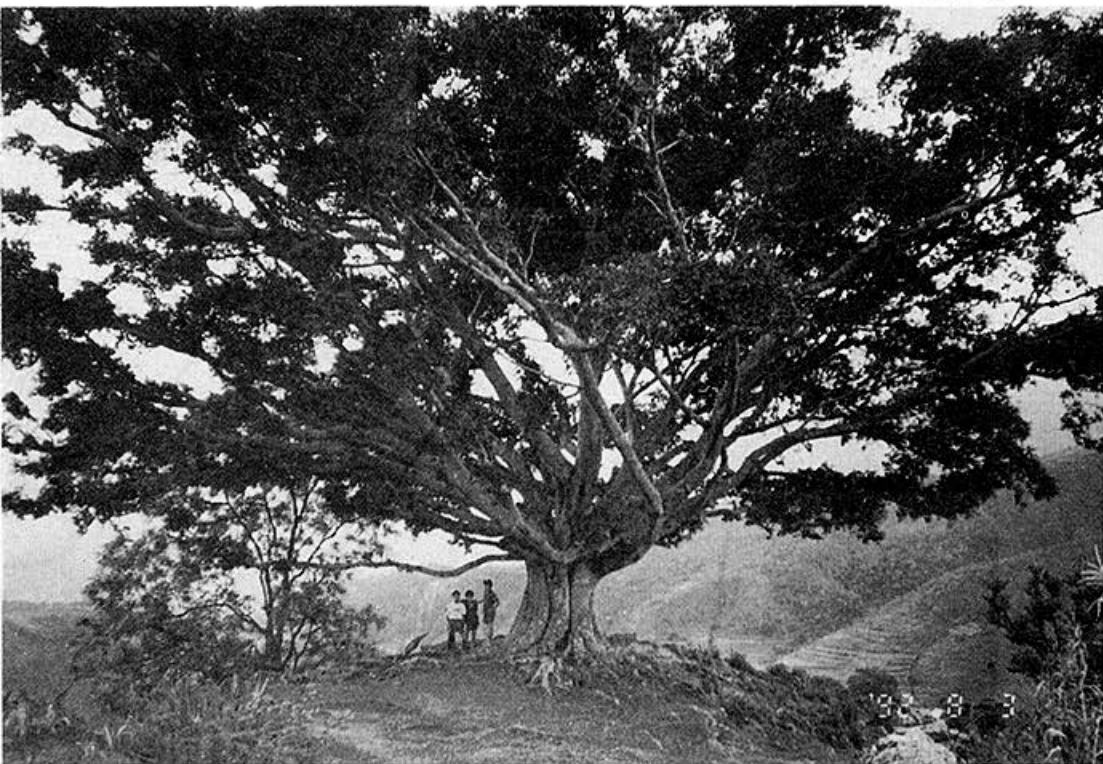
1992・8 **7**

毎月1回15日発行
定価/150円
年贈購送料/2,000円
(送料共)

編集/緑の地球ネットワーク(準)

大阪市港区市岡元町3丁目9-16 西建ビル
TEL.06-583-1719 FAX.06-583-1739(●552)
郵便振替 大阪 4-128465

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



緑の地球ネットワーク
Green Earth Network

(写真)神木として守られる菩提樹の巨木・ネパール

いま、アジアの緑は……

緑は自然と生命のシンボルであり、緑なくして私たちの存在はありません。その緑がいま地球規模で減少し、「沙漠化」が進行しています。そこから経済的な、さらに精神・肉体の貧困がもたらされ、それが戦乱の要因にもなっています。

この問題は、アジアにおいてとくに顕著です。中国内陸部における沙漠の拡大、黄河・長江（揚子江）中上流域における水土流失。ネパールにおける森林破壊と水土流失は、下流のバングラデシュの大洪水の原因になり、戦火に焼かれたインドシナ半島の緑の回復はなかなかすすみません。東南アジアの熱帯雨林は大規模な破壊をうけていますが、その元凶は日本の企業であり、私たちの生活とも無縁ではありません。

日本の緑も危ない状態にあります。ゴルフ場をはじめとするリゾート開発が自然の緑を奪い、林業切り捨て政策のもとで森林の荒廃が深まっています。自分の国の緑を守れなくて熱帯雨林を問題にする資格はない、という議論もありますが、地球環境に国境はなく、それを守ろうとする民衆にも国境はないはず。自然を大切に思う人と人との連帯こそが、緑の地球を守り再生させる力であり、貧困と戦乱をなくす力だと思ふのです。



水土流出の著しい中国四川省の河



中国内陸部の広大な沙漠



緑の極端に少ない黄土高原の山なみ (中国山西省)

森林破壊の進むネパールの山村地域



大洪水のあと、給食をうける子どもたち (バングラデシュ)

熱帯雨林から伐り出された巨大な原木 (マレーシア)



ぜいたくが緑を奪う……造成中のゴルフ場

フィリピン・マニラのスラム街



荒廃の進む日本の森林

GENのめざすもの

Green Earth Network

今、私たちは、あらゆる生命を育む地球と人類の危機の只中にあります。45億年の地球の運動が作り出した、すばらしい全生命共生の世界が失われようとしています。それは、これまでの、とりわけ現代の強大国のすさまじい大量生産・大量消費・大量廃棄の活動と世界支配によってもたらされました。私たちは、このことに対する深い歴史的反省のもとに、新たな存続の道を見出さなければなりません。

私たちは、緑を回復し、水と土をしっかりと保つことを要(かなめ)として、生存環境の危機克服を目指します。すでに50億をはるかに超える人類にとって、それらが空気とともに不可欠の生存資源であり、共生の世界の豊かさを回復するものだからです。森林を破壊し、水土を失うことによる生存の危機は、すでに現実の事態として各所に現れていることを直視しなければなりません。

環境危機克服は、とりわけ第三世界の民衆にとっては、(将来の危機への備えのみならず)今の生存をかけた闘いです。強大国による支配は第三世界を貧窮に追い落としただけでなく、第三世界の環境劣化を加速してきました。民衆の人間としての尊厳をかけた充実した生活の再建は、直接の生存基盤である環境の再生と、まったく一体のものであることは明白です。私たちは、第三世界民衆の生活と環境とから、世界を見直します。

私たちは、広大な宇宙で唯一の生命体である地球に属していることを痛感します。新たな時代の、国境を越えた普遍的な責任意識と行動が求められています。私たちは健全な環境と自分自身の生命の充実を当然のこととして追求するように、アジアの、アフリカの、ラテンアメリカの民衆の生活再建と環境再生の努力の大道を見出したいと思わざるをえません。

第三世界での、村々に深くわけ入った民衆同士の草の根協力こそ、欠かせない鍵です。世界のすみずみの草の根協力が未だ人類の営みを根元から変えるには至っていないとはいえ、すでに輝かしい先駆者たちの実績があります。それらをしっかりと学び、それらを着実に広げることから、私たちの活動をふみ出していこうではありませんか。

緑の地球ネットワーク準備会発足以来すでに半年以上を経過しました。中国山西省雁北地区での緑化協力はささやかながらも力強く前進しています。緑化協力が国境を超えた民衆同士の新しい関係の始まりを切り開きつつあります。この努力をしっかりと持続し、さらにアジア各地での緑化協力の展望を見定め、1993年春、緑の地球ネットワークの正式発足を実現したいと思います。

これまでの活動

●国内では

緑の地球ネットワーク（準）は今年
の1月に発足して以来、アジアでの緑
化協力を模索すると同時に、国内では
環境やエコロジー問題を中心とする講
演会や、体験をつうじて自然環境を考
えようとする「自然と親しむ会」を開
催してきました。また、会報「緑の地
球」を月一回発行しています。今後
ネットワークの広がりをもっと大き
くしたいと思っていますので、みなさ
んの参加をお待ちしております。



●中村尚司さん（龍谷大学教員）の講演に
熱心に聞きいる参加者（1992年3月27日）



●第1回「自然と親しむ会」能勢町で植林。
「私にもやらせて！」（1992年4月5日）



●第2回「自然と親しむ会」河内長野で間
伐材利用の木工。日曜大工で鍛えた腕の
さえを見よ。（1992年6月28日）



●台風になげず、キャンプに参加した強者
たち。（1992年8月9日）

●海外では

中国山西省の渾源泉は黄土高原の農山村。ながい歴史と戦火のなかで、段々畑とハゲ山だけになりましたが、1980年代後半から現地の人びとによって精力的な緑化がはじまりました。

水土流失と風砂の害を防ぎ、農業と生活を発展させるには、緑をふやして環境をよくするしかないからです。

緑の地球ネットワーク準備会は、この人びととの協力で、県内西留郷に「中日友好交流青年友誼林」（1670ヘクタール）、北岳・恒山に「地球環境林」の建設に着手しました。92年5月に贈りつけた10万元(250万円)は数十万本の苗木となって、育ちつつあります。

ワーキングツアーの派遣など協力をつづけながら、すぐ近くを流れる桑干河（北京などの水源）流域の緑化事業にも93年から関係を拡大することで現地と合意ができています。



●第1次緑化協力団（1992.5.6～5.18）
山西省渾源泉西留郷をはじめ桑干河緑化プロジェクト等の考察、及び緑化基金を現地に届ける。写真は恒山で。

ほくらが今回植えた苗はほんのわずかだけど、少しでも多く立派になってほしい。
喜多亮夫（20歳・大学生）



「再来（サイライ）」
といってくれた村の人たちに本当にまた会いに行きたい。
久保朋子（22歳・アルバイト）



そう、そう、この体験ツアーはとっても楽しいことなんや、行って来たほくにして、そしてこれから行くとしている君たちにも。

西森政行（22歳・大学生）



●第2次緑化協力団（1992.8.1～8.12）
渾源泉西留郷・恒山・苗圃・大同県徐町郷で植樹活動に参加。写真は西留郷で。



広い広い中国の、広い広い黄土高原 / そこに緑の海が復活できたら……

加茂わかな（19歳・大学生）

これからの活動

新たな海外協力の展開

中国山西省での緑化協力は力強く前進しています。それをふまえて、ネパール及び中国雲南省での国際協力を求めて、以下のように準備活動を組み立てようと思います。

ネパール
∧

この夏のネパール訪問で緑化協力の確かな手がかりを得てきました。この成果に立って、現地より緑化協力の要望がある主要地域の本格的調査を早急に実現すること、及びこのため現地機関との直接交渉を含む連絡を密に保ちたいと思います。また12月末～1月上旬「アジア自然塾」（稲村昭南氏主宰）の企画するアンナプルナ内院行きへの合流等を準備活動としてとりくむ予定です。



中国
雲南省
∧

当ネットワーク（準）結成以前からの雲南省での緑化協力模索の努力を再開・強化し、雲南の状況把握の上に立って、早急に現地との直接接触に入る予定です。

みなさんのご協力をお願いします

●「黄土高原に緑を！」パネル、絵ハガキ、テレホンカード

黄土高原に緑を！ ネットワークの最初の協力活動・中国山西省の緑化を紹介する写真パネルができていきます。サイズはA3とB4の2種類で、1組15枚前後。学校やその他の施設、各種の集会など、小規模でもけっこうですから展示して活用してください。

また絵はがき（6枚組 300円）、テレホンカード（2種類、50度数1000円）も準備中で、売上金は現地に贈る苗木代になります。みなさんのご協力をお願いします。

●緑化基金にご協力を！

環境に国境はありません。緑の保護は地球環境にとって最大の課題のひとつですが、資金ひとつとっても私たちのちょっとした協力アジアの国では大きな効果をうみます。

中国山西省のばあい、1ヘクタールの緑化費用は35,000円。現地で必要とされる苗木は、カラマツ、樟子松などの松類は1本2～5円、果樹苗でも40円ほどです。

これからはじめるネパールでは、みなさんからの協力資金をもっと効率的に生かすことができます。

コーヒー1ばい、タバコ1箱分でもけっこうです。ぜひご協力ください。

あなたもGENの会員に

深刻化する地球環境の危機。闇を呪うより一本のろうそくを灯せ——というわけで、私たちは民衆の協力による国境を越えた環境修復に乗り出しました。この半年のあいだにたくさんの方が会員となって、活動をともにして下さることになりました。今後、国際協力の舞台もふえていきます。さらに多くのみなさんが会員になって、この運動をともにすすめて下さるようお願いいたします。

■会費 年間 12,000 円 家族会員 6,000円 学生会員 3,000円 ジュニア会員 1,000円
※会報だけの購読は 2,000円です。
